

生命と倫理 13回目

生命倫理の課題と展望 経営の倫理



生命倫理の新しい課題 (抜粋)

位田 隆一
国立大学協会専務理事

20世紀後半以降の医学・生命科学は、「人」を生物種としての「ヒト」として身体の一部を用いて研究を行ない、その成果を通じて人の生命や健康に大きな福利をもたらしてきた。現在の生命倫理は、こうした人を対象とした研究とその成果の応用のうえで、次のことが問われるようになってきた。

1. 何を目標として、どこまで、どのような方法であれば認められるか
2. 研究においてはインフォームド・コンセントと研究計画の審査と手続の遵守
3. 臨床研究では安全性と有効性の審査
4. 診療においては医師の説明責任と患者の自己決定を軸とした倫理性的の確保

しかし、昨今の科学技術の進展は、生命そのものへの介入の可能性を拡大しつつある。ゲノム編集、再生医療、合成生物による細胞合成、医療技術革新等は、「生命の操作」を現実としつつあり、加えて人工知能（AI）の利用が人間という存在に揺らぎを生じている。

生命倫理の新しい課題 (抜粋続き)

位田 隆一

- ・我々は生命倫理についてこれまでとは異なる価値観を必要としている。
- ・それは、「一人一人の人」に関わる生命倫理から「人間」全体に関わる生命倫理への変動である。
- ・もはや自律や自己決定（インフォームド・コンセント）に依存するのみでは問題は解決できない。
- ・現在の科学技術の進展により、これまでの個人レベルの生命倫理に対して、これからの人類についての生命倫理を考えなくてはならない時代になった。
- ・そこでは、これまでの価値観や生命観、死生観では必ずしも十分に対応できなくなっている。
- ・人間、生命、そして死という、根源的かつ新しい生命倫理の課題をつきつけられているのだ。

クローン技術と再生医療

人間移植用の臓器持つブタ、国内初誕生 遺伝子改変、25年臨床研究

2/13(火) 0:01配信 毎日新聞

遺伝子改変されて人間への移植用の臓器を持った状態の子ブタが11日、国内で初めて誕生した。

種の壁を越えた「異種移植」は、新たな移植医療につながると期待される。今後、国内の研究機関でサルへの移植実験を始め、人間に移植する臨床研究を2025年中に始めることを目指す。

明治大発のベンチャー企業「ボル・メド・テック」は、米バイオ企業「イージェネシス」から輸入した遺伝子改変ブタの細胞を使い、このクローン子ブタを誕生させた。



生命と倫理の展望

森岡 昭雄

「生命と倫理」に見られるさまざまな事例を駆け足で見ましたが、おそらく、これらのいずれかの倫理が一時的にすぐれていて、残りは軽く捉えるという考え方をすべきではありません。

さまざまな倫理は、それぞれ不十分な点を互いに「補完しあう」関係にあると考えるべきです。なぜなら、各々の倫理が生命倫理に導入されたのも、それまでの生命倫理には欠けていた「視点」に生命倫理自身が気づき、補いながら成長を遂げてきたと考えられるからです。

したがって、私たちは、これらの倫理のどれも軽く捉えず、また、それらの倫理が持つ欠点も無視することなく、個々の場面で最も注目すべき倫理、あるいはそれらの関連事象を、その都度新たに構築していくという心構えが必要なのではないかと考えます。

経営倫理学 について



企業倫理と経営倫理

企業倫理

企業として**最も重要な守るべき基準**となる概念。これは、法令で明確な定義ができず、**行動指針**などで倫理感、価値観を明確に定義することが必要である。法令順守はもちろん、ステークホルダーとの信認関係での権利と義務を明確にすることも重要である。

経営倫理

企業や組織として**「規範」**となる概念である。**経営理念を具現化したもの**といえる。組織やその社員が行動するとき、道徳的な思慮深さ、組織の風土、体質、社員の行動が表れる結果となる。

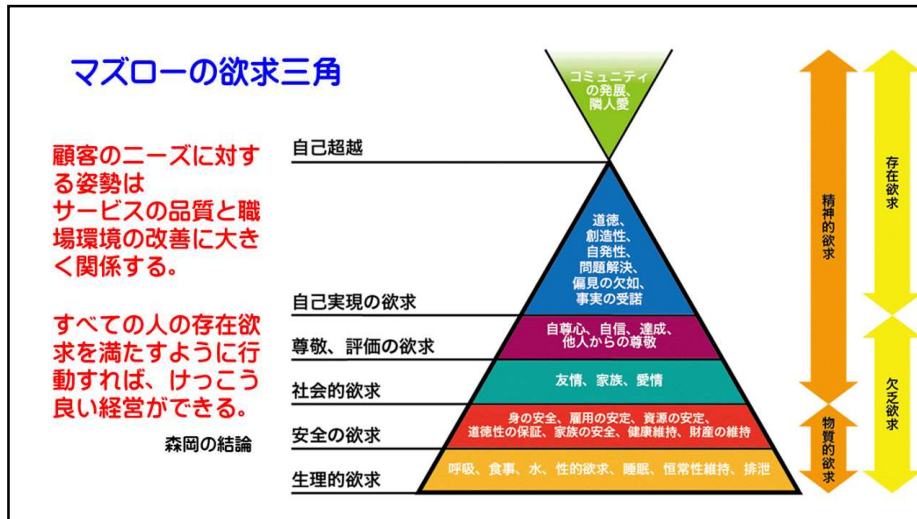
経営倫理には、企業の不祥事等を未然に防ぐための**「予防倫理」**と、社会や地球環境への貢献をする**「積極倫理」**という視点がある。



アブラハム・H・マズロー

1908～1970

人間性心理学の生みの親



ピーター・F・ドラッカー

(1909年- 2005年)

マネジメントの父と呼ばれる世界的な経営学者。経営思想家と自称。

全体主義・数学的組織経営のあり方から倫理・社会的責任経営のあり方への思想転換を勧めていた。

- ### 森岡が好きな、ピーター・F・ドラッカーの言葉
- ・人は自分の**価値観**に従い、自分の強みで**社会に貢献**する責任があり、それが**本当の幸福**である
 - ・企業の目的は**顧客の創造**である。企業は二つだけの企業家的な機能をもつ。それが**マーケティング**と**イノベーション**である
 - ・**イノベーション**は企業家に特有の道具である。イノベーションは、富を創造する力を資源に与える。それどころか、イノベーションが資源を創造する
 - ・**マーケティング**の目的は、販売を不必要にすることだ。顧客について十分に理解し、顧客に合った製品やサービスが自然に売れるようにすることだ
 - ・最も困難な試練に直面している先進国が、この半世紀間、社会として最もよく機能してきた**日本**である

経営倫理学とは

企業のビジネス行動の道徳的な妥当性に注意を向けた研究。

経営に関係することで、そこに善悪の問題が生じるかどうか、倫理的な振舞いを考える学問といえる。

経営倫理学の基本概念

- ① **消極的禁止命令の倫理**
最低限の倫理で、企業では主にコンプライアンスで語られる。
- ② **積極的義務の倫理**
意思決定のための倫理で、功利主義、義務論などを分析材料とする。経営において、利害関係者の効果の量で判断するか（功利主義）、行為の動機をもって判断するか（義務論）を考慮する材料とする。
- ③ **徳倫理**
経営倫理においては経営者のリーダーシップといえるもの。よりよい徳をつけた経営者や管理者がよりよい判断をくだすという考え。

経営倫理学における概念の変化

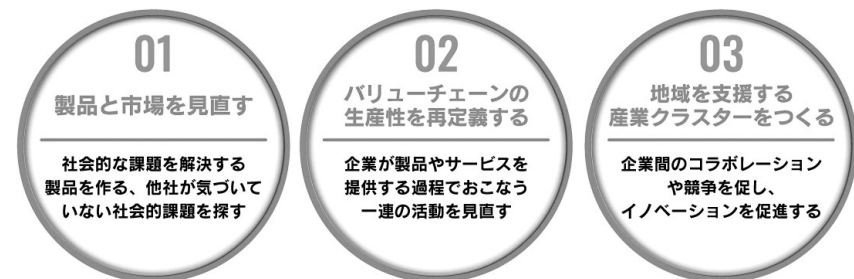
- コンプライアンス** ⇒ 単なる法令順守を行うことではなく、「コンプライアンスを**経営戦略の一環**として捉える」という考え方になっている。
- CSRからCSV** ⇒ 従来のCSRは、適当に力を抜いた社会貢献が実施されていたが、近年、**共通価値の創造**という概念が生まれ、社会問題の解決こそ最大のビジネスチャンスという考え方になっている。

経営倫理学における CSV (Creating Shared Value)

企業と社会は対立するものではなく、切っても切れない関係の「共通価値」を持っていて、企業の経済的発展が社会の進歩を促すという考え方に至っている。

CSVはCSRを企業の付随的活動ではなく、経営戦略の一つと捉える考え方であり、「戦略的CSR」あるいは「攻めのCSR」と捉えることができる。

CSV 経営を実践するための三つのアプローチ



SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) は、2015年9月に国連のサミットにて採択された国際社会における共通の開発目標である。



目標16

すでに日本は、世界中のどの国よりも早く取り組んでいる。

世界に貢献できる宣言をしているはずなのだが、日本国政府はこれを変えようとしている。



第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

平和主義の理想を掲げる日本国憲法は、**戦争放棄、戦力不保持、交戦権の否認**に関する規定を置いている。

拡張解釈 と 縮小解釈 がある。

このSDGsの促進に有効な戦術となるのがCSVである。SDGsの解決すべき17の社会的課題に対して、企業が自社の人・モノ・金・情報・文化・技術などの経営資源を必要な時に必要な場所へ投入し、その実践領域を発見することでSDGsを生かすCSVが戦略的に完成する。

経営倫理学は、受動的な認識能力で“がんじがらめ”に縛られていた企業を解放させ、持続的発展を可能にすることができる力を持つ学問といえる。



SDGsの達成には
イノベーションが
不可欠なんだぜ